

SPANCRETE CORPORATION

Investors' Guide IR 2008

会社情報



北陸新幹線防音壁工事 新潟県糸魚川 北陸道架道橋付近

株式会社 スパンクリート コーポレーション

本 社

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-9-25

Tel: 03-5689-6311 Fax: 03-5689-6321

www.spancretecorp.com

JASDAQ < JASDAQ・コード 5277 >

● みなさまとのコミュニケーションを大切に ●

インベスターズガイドについて

インベスターズガイドは、株主ならびに投資家のみなさまに、当社の財務内容を正確にお伝えするとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段として発行を続けてまいりました。毎年約100通のアンケートの回答をいただき、ご意見の一部を編集に反映させていただいております。今後ともみなさまからのご意見をいただきたいと存じますので、同封のアンケート用ハガキにてお寄せいただければ幸いです。

■ 2008年3月期について

2008年3月期は、売上高44億5千万円（前年同期比1.7%増）、営業利益2億1千3百万円（同9.3%増）と増収増益となりました。

主力のスパンクリート事業は、上半期は売上、出荷及び生産数量が堅調に推移し、加えて販売価格に改善の兆しが見られ営業粗利益率が上昇したこと等から、上半期としては4期振りの黒字を達成しました。しかし、下半期は改正建築基準法による確認審査業務の遅延長期化により生産・出荷数量が大きく計画を下回ることになったため、一転して宇都宮工場（第1～3工場）の第1工場の一時操業休止等の危機管理対応を実施いたしました。その結果、数量減によるマイナスの影響を最小限に止めることができ、一方で販売価格改善による営業粗利益の増加が図られたこと等から、最終的には通期で営業利益8千6百万円（同44.3%増）と増益を確保することができました。

また、不動産事業は、賃貸オフィスビル3棟の稼動状況は引き続き高水準を維持しているものの、一部テナントの退室等もあり、営業利益1億3千7百万円（同5.6%減）と僅かながら減益となりました。

営業外収益は株式市場の低迷等により余資の運用益が減少いたしました。以上の結果、経常利益は2億9千9百万円（同22.4%減）となり、非上場株式の減損処理等に伴う投資有価証券の評価損8千2百万円及び固定資産除却損1千2百万円を特別損失に計上し、当期純利益は1億2千8百万円（同16.6%減）となりました。

■ 2009年3月期の業績予想

2009年3月期は、近時の原油価格や資源価格の高騰の影響がスパンクリート事業を直撃することになり、かなりの苦戦が見込まれます。同事業の主たる原材料のセメント、PC鋼線の大幅な値上げに加え、エネルギーコストや輸送コストも大きく上昇している中、全社的なコストアップが損益を圧迫することは不可避であり、一方で製品価格の引き上げはマンション不況等の悪環境下で難航が予想され相当の努力が必要となります。従って、不動産事業の賃貸ビル3棟の安定収益は見込まれるものの、スパンクリート事業減益の影響が大きく、両事業合わせた業績予想は、売上高44億5千万円、営業利益1億4千万円、経常利益1億7千万円、当期純利益9千2百万円と減益を見込んでおります。

■ 中期経営計画の進捗状況と取組み方針

第2次中期経営計画の初年度の2008年3月期は、当初想定していた事業環境が改正建築基準法の施行や資源価格の高騰等により激変しました。これに対応した経営努力を懸命に行いましたが、残念ながら全ての数値が計画比未達に終わっております。

2年目の2009年3月期も前述の通り苦戦を予想しており、一部数値面の計画修正は避けられない情勢ですが、下記第2次中期経営計画の主要経営施策は堅持する方針であり、むしろ難局を乗り切るために加速して実行する必要があると考えております。

- ・ 流通倉庫、工場、防音壁向け等の相対的に粗利益率の良好な壁板の営業に注力
- ・ 新製品（Jスラブ、Mスラブ等）の開発、戦力化に経営資源を投入
- ・ マンション需要の減少に対応して、マンション向け床材の過度の依存度（現状の売上数量構成比約65%）を引き下げる
- ・ 主力2工場（宇都宮、岩瀬）のコスト競争力及び品質競争力の強化を図る
——NPS（トヨタ生産方式を基盤）とISOの着実な実行

また、最近の動向として中期経営計画作成当時織り込んでいなかった壁板の需要やトンネル等土木関連の新たな引き合いもあり、これらプロジェクトを成功させることにより、中期経営計画最終年度の数値目標達成に向けて鋭意努力して参る所存でありますので、引き続き株主の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

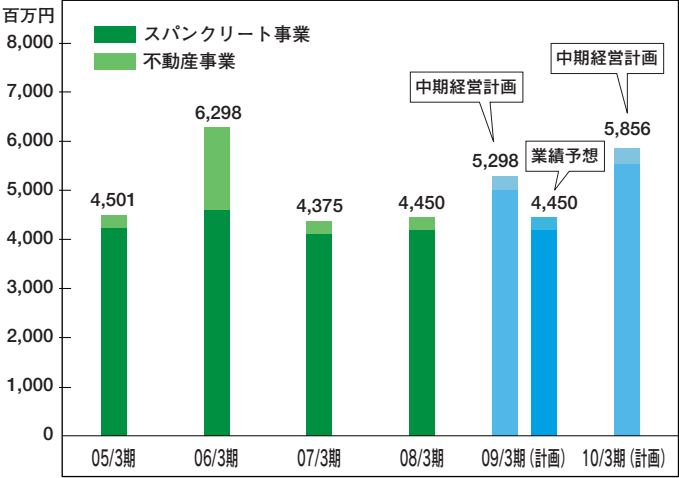
■ コーポレート・ガバナンスについて

当社は、「高品質の穴あきPC板を提供し続けることにより、建設事業の進歩と合理化に寄与する」ことを基本的な企業理念として掲げ、企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、経営の透明性・公正性を図り、企業価値の向上と社会から信頼される企業の実現を目指してまいります。また、関連法規を遵守し、業務の有効性・効率性、財務報告の信頼性を高めるべく、内部統制システムを適切に運用することによってコーポレート・ガバナンスを充実させていくことが経営上の最重要課題の一つであると位置付けております。

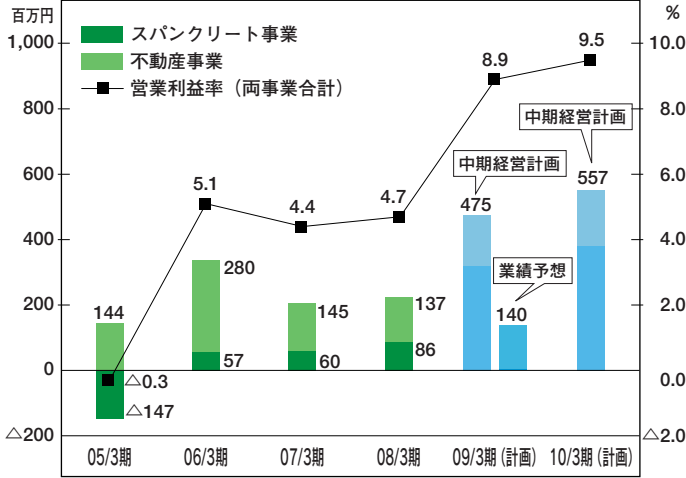
当社の経営管理体制は、「取締役会」「監査役会」「会計監査人」からなっており、「取締役会」は8名の少数取締役で、うち3名はコーポレート・ガバナンス強化の観点から社外取締役で構成し、任期は1年、月1回の定時開催のほか、必要の都度、随時開催しております。また、「監査役会」は3名（うち常勤監査役1名）で、全員が社外監査役で構成されており、「会計監査人」は、新日本監査法人に委嘱しております。

当社の「内部統制システムの基本方針」は、平成18年5月24日開催の取締役会で決議し、平成20年4月15日開催の取締役会で一部改正しております。また、金融商品取引法上の内部統制システムの本番開始に向けた準備については、体制構築をほぼ終え、大詰めの作業を鋭意進めております。

売上高



営業利益



損益計算書要旨

	06/3期 連結	(%)	07/3期 単体	(%)	08/3期 単体	(%)
売上高	6,298	100.0	4,375	100.0	4,450	100.0
売上原価	5,374	85.3	3,606	82.4	3,655	82.1
販売費および一般管理費	599	9.5	573	13.1	581	13.1
営業利益	324	5.2	195	4.5	213	4.8
営業外損益	92	1.4	190	4.3	86	1.9
経常利益	417	6.6	386	8.8	299	6.7
特別損益	△112	△1.8	△45	△1.0	△55	△1.2
税引(税金等調整)前 当期純利益	305	4.8	340	7.8	244	5.5
法人税、住民税 及び事業税	133	2.1	57	1.3	131	2.9
法人税等調整額	△3	0.0	127	2.9	△16	△0.3
当期純利益	175	2.8	154	3.6	128	2.9

(単位: 百万円)

- スパンクリート事業
不動産事業

4,199百万円
251百万円
- スパンクリート事業
不動産事業
共通費用

86百万円
137百万円
△10百万円
- 株式市場の低迷等により余資の運用益が減少
- 土地売却益
投資有価証券の評価損
固定資産除却損

39百万円
△82百万円
△12百万円

キャッシュ・フロー計算書

	06/3期 連結	07/3期 単体	08/3期 単体
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引(税金等調整)前当期純利益	305	340	244
減価償却費	201	165	173
運転資金の増減額	412	△40	591
法人税等の支払額	△5	△163	△49
営業活動から得たキャッシュ	913	302	959
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出	△898	△1,228	△953
有価証券の売却による収入	737	747	838
有形固定資産の取得による支出	△111	△209	△117
その他投資等の増減額	73	81	85
投資活動から得たキャッシュ	△199	△609	△147
財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入金の返済による支出	△157	△81	△100
自己株式の取得による支出	△5	—	△82
自己株式の処分による収入	—	137	—
株式の発行(ストックオプション)による収入	17	0	—
配当金の支払額	△38	△46	△65
その他	—	0	—
財務活動から得たキャッシュ	△184	9	△248
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	6	1
現金及び現金同等物の増減額	530	△290	564
現金及び現金同等物の期首残高	1,587	2,058	1,767
現金及び現金同等物期末残高	2,118	1,767	2,332

(単位: 百万円)

- 受取手形、売掛金の回収による増加が要因
- 賃貸ビルの大規模修繕及び投資有価証券の購入等による支出が要因
- 借入金の返済、自己株式の取得及び配当金の支払により減少

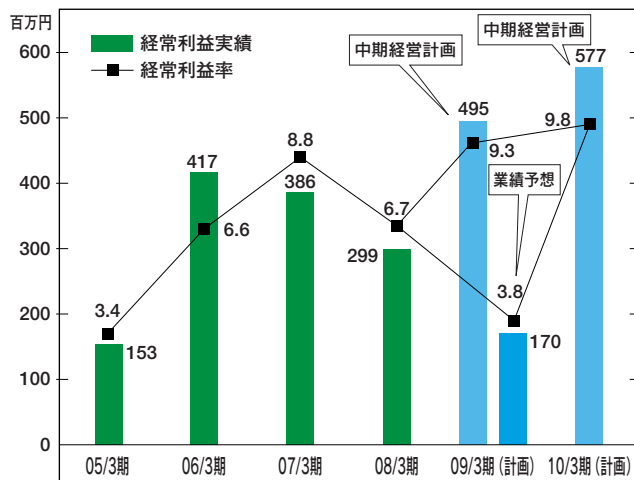
財務諸表コメント

- 〔07/3期〕

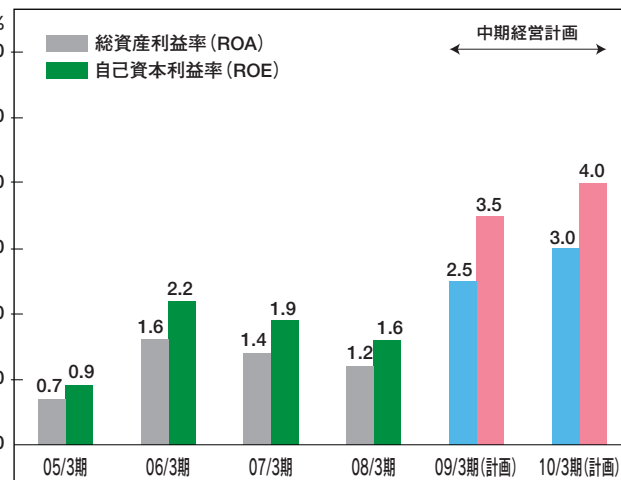
スパンクリート事業は、上期は出荷・生産数量の落ち込みにより採算的に苦戦するも、下期の出荷数量増による工場の生産性の上昇等により前期並みの利益水準を確保いたしました。不動産事業は、前期のプロジェクトベースの収益はなかったものの、賃貸ビルの稼働状況は高水準、安定収益を計上いたしました。
- 〔08/3期〕

スパンクリート事業の上期は数量増による採算性の向上、粗利益率の改善等により業績は好転しました。下期は改正建築基準法の確認審査遅延の影響で数量が計画を下回ったものの、マイナスの影響を最小限にとどめ増収増益を確保することができました。

経常利益



総資産利益率・自己資本利益率



貸借対照表要旨〈資産の部〉

(単位：百万円)

	06/3期 連結	07/3期 単体	08/3期 単体	(%)
資 産 の 部				
流 動 資 産	4,230	3,727	3,983	38.0
現金及び預金	1,714	1,342	1,917	
受取手形及び売掛金	1,565	1,583	1,157	
完成工事未収入金	109	87	39	
有 価 証 券	403	424	545	
た な 卸 資 産	324	218	262	
繰 延 税 金 資 産	80	36	56	
そ の 他	32	33	3	
固 定 資 産	6,505	7,242	6,500	62.0
有 形 固 定 資 産	4,737	4,769	4,669	44.5
建物及び構築物	1,146	1,190	1,206	
機械装置及び運搬具	402	396	327	
工具、器具及び備品	20	18	13	
土 地	3,162	3,163	Point ① 3,114	
建設仮勘定	4	1	6	
無 形 固 定 資 産	49	32	23	0.2
投資その他の資産	1,719	2,440	1,808	17.3
投資有価証券	1,418	2,186	Point ② 1,543	
長期貸付金	34	28	28	
繰 延 税 金 資 産	—	—	15	
そ の 他	278	241	236	
貸 倒 引 当 金	△12	△16	△17	
資 産 合 計	10,735	10,969	10,483	100.0

Point ① 不稼動資産 四日市市土地売却

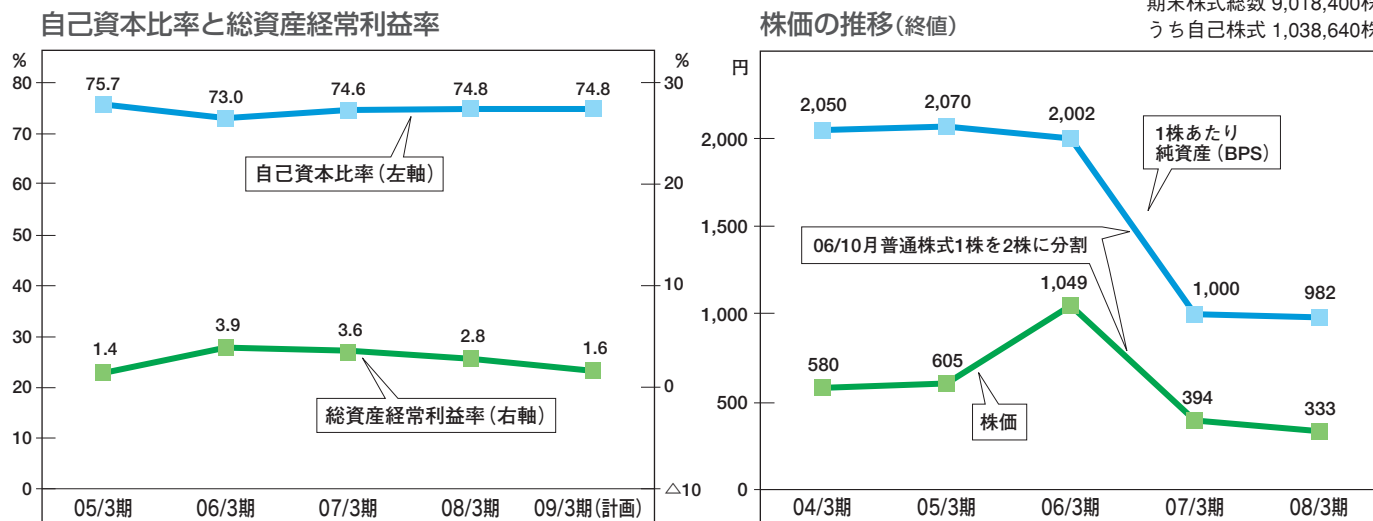
Point ② 投資有価証券 売却・時価の下落等で減少

貸借対照表要旨〈負債・純資産（資本）の部〉

(単位：百万円)

	06/3期 連結	07/3期 単体	08/3期 単体	(%)
負 債 の 部				
流 動 負 債	1,959	1,496	1,671	15.9
買 掛 金	103	118	84	
工 事 未 払 金	103	123	137	
短 期 借 入 金	1,200	900	900	
一年返済予定の長期借入金	56	100	100	
未 払 法 人 税 等	140	32	107	
そ の 他	355	222	341	
固 定 負 債	943	1,285	972	9.3
長 期 借 入 金	—	175	75	
長 期 未 払 金	102	100	100	
再評価に係る繰延税金負債	693	693	693	
そ の 他	146	316	103	
負 債 合 計	2,903	2,782	2,644	25.2
資 本 の 部				
資 本 金	3,295	—	—	
資 本 剰 余 金	3,657	—	—	
利 益 剰 余 金	1,210	—	—	
土地再評価差額金	△234	—	—	
その他有価証券評価差額金	183	—	—	
自 己 株 式	△279	—	—	
資 本 合 計	7,832	—	—	
負債及び資本合計	10,735	—	—	
純 資 産 の 部				
株 主 資 本				
資 本 金	—	3,295	3,295	31.4
資 本 剰 余 金	—	3,710	3,710	35.4
利 益 剰 余 金	—	1,310	1,373	13.1
自 己 株 式	—	△194	Point ③ △277	△2.6
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金	—	299	△28	△0.3
土地再評価差額金	—	△234	△234	△2.2
純 資 産 合 計	—	8,187	7,839	74.8
負債純資産合計	—	10,969	10,483	100.0

Point ③ 自己株式204千株を期中に取得し、期末残は1,038千株



新製品トピックス

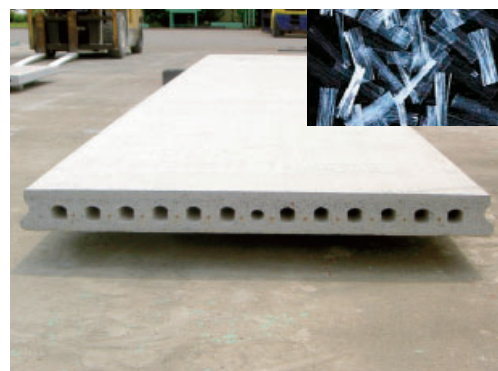
□Mスラブのプラットフォームへの展開

土木用として開発したMスラブ（補強鉄筋入り床）をプラットフォームの床板に使用する新たな試みが始まっております。
駅のホームからの転落事故は年間約150件に上ると言われており、ホームドアや可動柵の設置が叫ばれております。
ホームにはスパンクリート板が多数使用されておりますが、従来のスパンクリート板ではホームドア等への対応が耐力的に問題があるため、代替としてMスラブを採用しようとする動きが活発になっており、鉄道各社からの引き合いが続いております。
すでにMスラブで完成したホームもあり、今後積極的に展開を図る予定です。



□トンネル天井板「STCパネル」の開発

道路トンネル専用の天井板として新製品を開発。
トンネル内火災時における爆裂防止対策として専用断面の開発及びポリプロピレン繊維を混入したスパンクリート板を開発しました。
市場の一般商品と比べ、高耐力・長スパン・耐火性能等に優れており、すでに複数の引合いをいただいております。
道路土木分野への新たな展開を図ります。



□新デザインパネルの開発

これまでのデザインパネルは「シャープさに問題がある」とのユーザーからのご要望に応えるべく新しい製造方法の開発テストに着手しました。
新しい製造方法は、これまでとは全く異なるアプローチから行っております。
デザインパネルの他に、これまでできなかったタイル・石等の打ち込みも視野に入れており、オフィスビル・商業店舗等をターゲットにした新しい商品の開発を行います。



今期施工の主な建物



物流倉庫

川崎市に建設された大型物流倉庫。
外壁にワイドパネル（幅広板）が採用されました。約10,000㎡を延約50日で取付け、工期が大幅に短縮されました。



物流倉庫

市川市に建設された大型物流倉庫。
工事期間の短縮を図るため、柱・梁・床・壁の構造躯体の全てをプレキャスト化し、外壁にスパンクリート板が全面採用されました。



物流倉庫

前年度竣工の同社物流センターに次いで2度目の採用。
外壁全面のほか、間仕切壁にも採用されました。
壁板 約12,000㎡



オフィスビル

大分市に建設されたオフィスビル。
外壁に全面採用され、スパンクリート板をタテ貼りとヨコ貼りで併用した珍しい設計です。



防音壁

北陸新幹線（長野～金沢間 228km）は平成4年に着工以来工事は順調に進んでおり、当社も防音壁パネルの納入を行っております。現在までに約500,000㎡の出荷が完了、今後は富山平野付近へと工事は移る予定です。
写真は新潟県糸魚川付近で北陸新幹線が北陸自動車道上を交差する架道橋にパネルの取付を行っているところです。
（表紙写真と同現場）

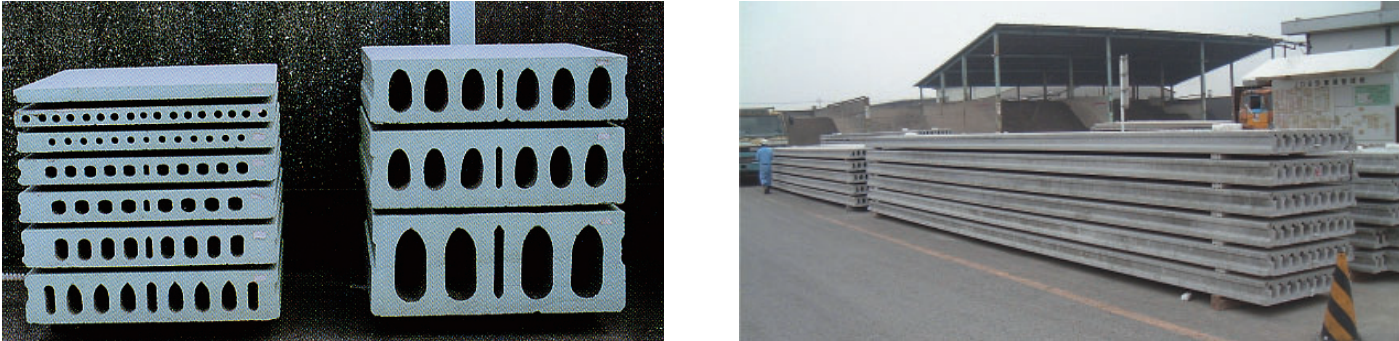


今期施工の主な超高層マンション



超高層マンション及び大型マンション約30棟を含めマンションの床に採用された合成床板は延約400,000㎡。用途別構成比の約65%を占めております。

スパンクリート



スパンクリート標準製品。PC鋼線の入った穴あきPC板。床材として、また壁材として建築から土木まで多目的に使用可能な材料です。厚さ7cmから35cmまで17種類。高耐力、ロングスパンが売り物です。

会社の概要

1. 会 社 名 株式会社スパンクリートコーポレーション
(英 文 名) SPANCRETE CORPORATION
2. 設 立 1963年(昭和38年) 3月23日
3. 資 本 金 32億9,582万円(2008年3月31日現在)
4. 役 員 代表取締役社長 原 田 稔
常 務 取 締 役 (生 産 管 掌) 北 村 勲
常 務 取 締 役 (営 業・工 務・技 術 管 掌) 齊 藤 建 次
常 務 取 締 役 (総 務・企 画 管 掌) 東 村 友 次
常 務 取 締 役 (業 務・設 計 管 掌) 村 山 典 子
* 取 締 役 後 藤 考 司
* 取 締 役 北 川 尚 史
* 取 締 役 坪 井 正 規
** 常 勤 監 査 役 大 谷 光 威
** 監 査 役 阿 部 裕 三
** 監 査 役 清 水 雄 輔
(2008年6月25日現在)
* は社外取締役です
* * は社外監査役です
5. 本 社 東京都文京区本郷4-9-25
〒113-0033 TEL (03) 5689-6311
仙台営業所 宮城県仙台市青葉区一番町2-11-1 MS一番町ハイッ
301 〒980-0811 TEL (022) 227-3432
宇都宮工場 栃木県宇都宮市平出工業団地8-5
〒321-0905 TEL (028) 661-2211
岩 瀬 工 場 茨城県桜川市岩瀬2161-1
〒309-1211 TEL (0296) 75-5711
6. 取 引 銀 行 みずほ銀行(丸の内中央支店)
三菱東京UFJ銀行(神田駅前支店)
りそな銀行(上野支店)
三菱UFJ信託銀行(本店)

主要取引先

- 設計事務所 三菱地所(株)・(株)日本設計・(株)日建設計・(株)日建ハウジ
ングシステム・東電設計(株)・(株)松田平田・(株)梓設計・
創元設計(株)・(株)横河建築設計事務所・(株)ジェイアール
東日本建築設計事務所・独立行政法人鉄道建設・運輸施設
整備支援機構・(株)久米設計・(株)石本建築事務所 他
商 社 三菱商事(株)・三菱商事建材(株)・三井住商建材(株) 他
建 設 会 社 鹿島建設(株)・大成建設(株)・清水建設(株)・(株)竹中工務
店・(株)大林組・前田建設工業(株)・戸田建設(株)・西松建
設(株)・三井住友建設(株)・鉄建建設(株) 他



宇都宮工場

大株主

- 1 三菱商事(株) 2 日本スパンクリート機械(株)
3 鈴木金属工業(株) 4 ソシエテジェネラルエヌアールエイエヌオーティティ
5 村山 好弘

会社の沿革

- 1963年 3月 スパンクリート製造株式会社(旧社名)設立
資本金1,000万円 代表取締役社長 村山好弘就任
4月 資本金4,000万円に増資
7月 資本金1億円に増資
- 1964年 2月 宇都宮第1工場屋外生産設備完備 試作開始 営業開始
7月 資本金2億円に増資
- 1970年 10月 宇都宮第2工場建設完了 生産開始
- 1971年 4月 日本スパンクリート協会を設立 会長に当社代表取締役
社長村山好弘就任
- 1975年 10月 空胴プレストレストコンクリートパネル工業協会(穴あ
きPC板工業協会)設立
会長に当社代表取締役社長 村山好弘就任
- 1976年 5月 JISA6511(空胴プレストレストコンクリートパネル)
制定される
- 1979年 12月 資本金2億3,000万円に増資
- 1982年 12月 宇都宮工場 JIS 指定工場となる
- 1984年 3月 スパンクリート合成床工法 建設大臣認定を取得
7月 宇都宮第3工場生産設備完了 生産開始
- 1988年 11月 資本金2億9,000万円に増資
- 1989年 5月 スパンクリート合成床工法 特許を取得
10月 資本金4億2,434万円に増資
11月 資本金14億9,759万円に増資
11月 岩瀬工場建設完了 生産開始
- 1990年 2月 スパンクリート合成床工法 発明大賞受賞
- 1991年 2月 社名をスパンクリート製造株式会社から株式会社スパン
クリートコーポレーションに変更
4月 スパンクリート合成床工法 科学技術庁長官賞受賞
9月 株式を公開(店頭) 資本金32億3,459万円に増資
- 1992年 4月 当社代表取締役社長 村山好弘 黄綬褒賞受賞(スパン
クリート合成床の発明考案など業務精励)
5月 株式を1対1.4に分割
- 1993年 5月 岩瀬工場 JIS 指定工場となる
- 1996年 7月 本社を文京区本郷4丁目に移転
- 2003年 8月 Jスラブ(組立床工法)(財)日本建築センターの構造評
定を取得
- 2004年 3月 明星プレテック株式会社(4月プレテック株式会社に社
名変更)の株式を100%取得
- 2005年 5月 宇都宮工場・岩瀬工場・設計部 ISO 9001認証取得
6月 原田稔代表取締役社長就任
11月 1単元の株式数を1,000株から100株に変更
- 2006年 3月 プレテック株式会社解散
10月 普通株式1株を2株に分割



岩瀬工場